

外国語活動・外国語

外国語活動・外国語科においては、自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育むことが課題です。そのため、「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標を適切に設定し、活用すること、単元や1単位時間の中に目的や場面、状況等を設定した言語活動を計画的に位置付けること、コミュニケーションの手段や必要な練習に用いるなど、ICT端末を目的に応じて活用することが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

外国語活動・外国語科においては、自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力に身に付けることができるよう、児童の発達の段階等を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定めることが大切です。特に外国語科では、学習指導要領を踏まえて「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標を設定し、公表することや、目標の実現状況を把握することなどが必要であり、設定した目標に基づき、ゴールの姿を児童と共有するなどして、児童が見通しをもって学習活動に取り組めるようにすることが重要です。また、学習活動に正対した言語活動を行い、ワークシートの記述や言語活動の様子、ミニポスター等の作成物を基に学習評価を行うことにより、指導と評価の一体化を図ることも大切です。

II 指導計画の改善のポイント

自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育成するためには、単元の指導計画において、①児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、などの学習過程を位置付け、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりできるよう工夫することが大切です。

また、育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることができるよう、各単元において、重点を置く領域を明確にし、単元終末の児童の姿を明確にすることにより、必要な学習活動をバックワードデザインで組み立てることも大切です。「指導したことを評価する、評価することを指導する」ことが基本となることから、ねらいの達成に向け、慣れ親しんだ表現を使ってやり取りをさせるなど、多様な学習活動を組み合わせるとともに、言語活動と中間評価（活動と活動の間の指導）を繰り返しながら児童が実際に思考・判断・表現する場面を計画的に単元に位置付けることが大切です。中間評価の際には、児童が現在できることと単元終末までにできるようになりたいことを児童自身に自覚させることで、次の言語活動を充実させることができます。

III 手立ての充実のポイント

ICTを効果的に活用することにより、言語活動をより充実させたり、児童一人一人がそれぞれの状況に応じて学習に取り組んだりすることができるようになります。例えば、ウェブ会議機能等を用いることにより、遠隔地の人に何かを紹介したり意見を交流したりする活動が、相手意識や楽しさのある「実際のコミュニケーションの場面」になり、感想やアドバイスを直接受け取って多様な視点から見直しを図ることができます。また、振り返りの場面で学習者用デジタル教科書を用いて表現等を確認したり、自身の発表映像を録画して改善ポイントを友だちと一緒に話し合ったりするなど、児童一人一人が状況に応じて学習に取り組むことができます。

自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育む計画の改善

<単元名>

Junior Sunshine 5 Lesson 2 「When is your birthday?」話すこと[やり取り]イ

<学年の目標>

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

<単元の目標>

互いのことをよく知るために、誕生日や好きなもの、好きな季節などについて、具体的な情報を伝え合うことができる。

【I 評価規準の設定】

・CAN-DO リストを基に単元で重点的に取り上げる技能や領域の学習到達目標を設定する。1つの単元で全ての領域・技能を評価するのではなく、焦点化し、年間を通じて、各単元にバランスよく位置付けている。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月日や季節の言い方や、When is your birthday? What ~ do you like?、その答え方などについて理解している。 <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日や好きなものなどについて、When is your birthday? What ~ do you like? 等の表現を用いて考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。 	<p>互いのことをよく知るために、誕生日や好きなものなどについて、具体的な情報を伝え合っている。</p>	<p>互いのことをよく知るために、誕生日や好きなものなどについて、具体的な情報を伝え合おうとしている。</p>

【Ⅰ学習到達目標の活用】

- ・単元の初めに本単元の目標を児童と共有し、これから学習することを具体的にイメージできるようにしている。

<単元の指導計画（5時間）>

時数	学習活動	評価規準・評価方法等
1	<p>○単元の目標を理解する。</p> <p>「お互いのことをよく知るために、誕生日や好きなもの、好きな季節などについて、クラスの誕生日ポスターを作成しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に示されたイラストを見ながら、季節や月の言い方などを知るとともに、その内容について気付いたことを伝え合う。 	<p>※ 第1時～第3時まで、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。</p> <p>児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2	<p>○月の言い方を尋ねたり答えたりするとともに、日にちの言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が提示したスライドを見て、それが何かを答え、季節や月の言い方などを思い出す。 	
3	<p>○月日を尋ねたり答えたりするとともに、友だちと好きな季節について伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語での日にちの言い方を聞いて、関係する行事との関連を理解する。 ・ペアで好きな季節について伝え合う様子について、1人1台端末で撮影する。 ・動画を基に、改善ポイントを話し合う。 ・やり取りの内容を見直し、1回目とは異なるペアで、再度やり取りする。 	
4	<p>○月日を尋ねたり答えたりするとともに、誕生日を伝え合う表現を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有名人になりきった教師や児童に対し、質問することにより、誕生日を伝え合う表現に慣れ親しむ。 ・デジタル教科書を活用して、自分に適した速度や聞き逃した部分などを重点的に聞く。 	<p>[知・技]</p> <p>行動観察</p>
5	<p>○クラスの誕生日ポスターを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのことをよく知ることができるよう、誕生日や好きなものなどが分かるポスターを作成する。 ○お互いのことをさらに知ることができるよう、ポスター記載されていないことについて、やり取りし、ポスターに追記する。 ○具体的な情報を伝え合うという学習を通して学んだこと（本単元の目標に即して身に付いたことや、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことなど）を振り返る。 ○やり取りをとおして聞けなかったことやもっと聞きたかったこと等をメモし、次時の学習につなげる。 	<p>[思・判・表]</p> <p>行動観察 (録画機能の活用)</p> <p>[主]</p> <p>ワークシート</p>

【Ⅱ学習過程の工夫】

- ・児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解し、目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てている。

【Ⅲ1人1台端末の活用】

- ・児童が客観的に自身を振り返ったり練習したりするため、児童がやり取りしている映像を録画して改善ポイントを友人と一緒に話し合うなど、児童同士がフィードバックを行っている。

【Ⅱ言語活動の充実】

- ・活動→指導→活動を繰り返す、児童が現在できることや単元終末までにできるようになりたいことを、児童自身が自覚させるとともに、効果的な表現を全体で共有することで、次の言語活動の充実につなげている。

【Ⅲ1人1台端末の活用】

- ・学習者用デジタル教科書を活用して、使いたい表現等を確認し、伝える内容を再考できるようにしている。

【Ⅱ言語活動の充実】

- ・学習内容や単元を通して身に付いた力を振り返る場面を位置付けることで日常場面での活用につなげている。